

令和7年度 京都市歴史資料館評議委員会 議事録

- 1 日 時 令和8年3月18日（水）14：30～15：45
- 2 会 場 京都教育文化センター 301号室
- 3 出席者
（評議員） 宇野千代子、坂本博司、鈴木裕、玉城玲子、深澤光佐子
（京都市） 平賀政策監（館長）
文化市民局文化芸術推進室：猿渡担当部長（事務局長）
文化財保護課：森尾課長、安井美術工芸・民俗文化財係長
歴史資料館：高宮次長、松中、秋元、尾下、野地、井上、竹村
- 4 欠席者
（評議員） 宇佐美英機、竹村佳子
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事運営
（1）開会
（2）開会あいさつ
（3）出席委員・出席者の紹介、配布資料の説明
（4）令和7年度事業報告説明（資料4参照）、質疑

【評議委員】デジタルデータの活用だが、他館ではネット上で公開されている。また、資料調査というのもデジタルでの調査になると思うが、実際に閲覧する場合、館内でどのようにされる予定か。

【京都市】館内では、まだデジタルでの提供の仕組みが整っていないため、未実施という状況である。

【評議委員】デジタルデータの活用は、文化庁の「ミュージアムDX」で見れば事業の進捗状況がわかる。しかし、実際にデジタルデータを見ようとすれば、歴史資料館だけではなく、他館でも、デジタル化された情報だけがあり、閲覧に供することができないということで断られている。デジタルデータが溜まっていることは理解しているが、データを見られるよう、仕組みを構築してほしい。

【京都市】パソコンなどで見ていただくイメージか。

【評議委員】例えば、インターネットである。歴史資料館では、資料の閲覧ということでは紙焼等を見ることが可能。追加の資料調査の中で、同じような町内や家の中でも、新しく見つかる場面があると思うが、その部分も含めてとなれば、一方は紙焼きで、一方はデジタルで見るということもあり得る。それらもサービスとして、できるところから、少しずつでも手を入れていってもらえればと考える。

【京都市】検討しているところだが、デジタルで、かつ、カラー印刷したいとなった場合、プリンターのことや料金体系をどうするのかという課題も見えてくる。可能なことから始めていく。

【評議委員】印刷やデータの貸借ということも考える必要があると思うが、明らかにあると判明しているのに、そこで見ることができないというのは問題かと思っている。

【京都市】検討課題とさせていただく。

【評議委員】令和7年度の事業報告において、展示の経費というのがあがっているが、これは展示パネルといった消耗品等の費用ということか。

【京都市】そのとおりである。

【評議委員】では、祇園祭の展示と湯本文彦の展示とは、よく似た数字があがっているのだが、これは偶然か、それともここまでしかできないということなのか。

【京都市】経費の件だが、基本的にチラシや看板等の経費等、それらを併せたものである。

【評議委員】こうした数字が、予算要求のときに問題になったり、何らかの指標になったりするということがあるのか。

【京都市】特にない。

【評議委員】しかし、毎回きちんと経費計算はされているのだろう。

【京都市】そのとおりである。

【評議委員】私が勤務する史料館は集客力が悪いと思われるようで、細かく言われることがほばない。しかし、昨今、文化庁等から費用対効果とかすごく厳しく言われるため、歴史資料館は、先端的にやっていると感じた。

【京都市】先日の新聞でも、文化庁の記事があつたが、京都市も財政は改善してきているものの、令和3年度あたりの財政危機時には、全事業の見直し等を行った。その際には、相当厳しくなり、経費がわかるものを提出するよう言われた経過もある。

【京都市】詳細を話すと、京都市の財政はコロナ禍があり、また、過去からの負債もあり、現状のままでは危険という経過があつた。そういったものが重なり、文化財保護行政に限らず、すべてが点検されたということである。その結果、コロナが明けて、少し経済活動が戻ってくるなかで、少しずつ改善されてきた。しかし、財政運営はどの自治体も厳しく、常に言われるのは、費用対効果ということ。ひとつの例として、収入と支出のバランスの

表がある。市民の税金により、この施設は、こういった運営ができているということを示すものである。公の施設ではすべからず出すこととなった。二条城は収入で運営費がまかなえているが、ほとんどの施設は公費負担が当然ある。先ほどの話にもあったように、文化庁の博物館の展示の件だが、5年間見て改編の是非を考えている。考え方としては、税金で運営しているという前提であれば、何らかの形で指標は必要と考える。京都市の場合は、先ほど言ったような事例により、アウトプットしている。

【評議委員】展示に関連してだが、業務内容のうち、展示が大きい部分を占めている。展示物を出しては片付け、内容を考えて、また出してのくり返し。しかし、費用対効果で考えると、どれだけの成果があったのか。展示というものにどれだけエネルギーをとられてきたのかと少し疑問に思っている。事業面において軽減していく、事業の質を下げるのではなく、もう少し、作業等様々な面で負担感をなくしていくような工夫が現場に求められるのではないかと。費用対効果とは別な意味で。もちろん決してやるなということではなく、力が入りすぎているというのではないかと感じる。

【京都市】実際に展示で実物をみてもらうという方法以外に、デジタルデータ化できれば、違う形の展示もできる。

【評議委員】デジタルと言え、ハード面も改善していく必要があるが、それは別問題として、むしろ、現場にいた人間としては、時間をかけて考えた割に、成果がどうだったのか、自分自身の反省も含めて意見したものである。

【京都市】承知した。

【評議委員】子ども向けワークショップの参加人数が53人となっているが、これは純粋に子どもだけの人数なのか。

【京都市】保護者の人数も含まれているが、半分以上は子どもである。

【評議委員】他館から見ると参加人数は多い。展示だけではなく、幅広い世代が楽しめるような企画みたいなものがあってもいいのかなと思う。第2展示室に展示のクイズあったが、それもすごく良い。そのほか、入口のところにビデオを置いて流している。すごく良い内容だが、見ている方がほとんどいない。また、玄関のところが少し暗く、入りづらいイメージがあるので、例えば明るいイラストとか、こういうビデオ放送をやっているなど、来館者が増えるような雰囲気作りが必要なのでは。

【京都市】子ども向けワークショップは、毎回抽選を行うくらい人気だが、内容は検討させていただく。入口については、確かにそんな感じなので、気軽に入ってもらえるような雰囲気作りを検討していく。

【評議委員】こちらの業務ではないが、道路上に歴史資料館はここを示す看板がある。それが真っ黒に汚れていて、開館しているのかという雰囲気を感じる。実は京都新聞の記事で、古い看板を取り替えたという記事が載っており、今回変わっているのかと思ったが、今朝見ると、古いままだった。担当部局に看板を新しくしてほしいと申請することはできるのか。

【京都市】検討する。

【評議委員】歴史講座だが、展示室での夜間開催。空いているところに椅子を並べてという感じだが、以前からそういう方法でやっていたのか。

【京都市】多くの方が来る場合、別の会館を借りるという実施方法もあったが、近年は展示室で開催している。展示も一緒に見ることが可能というのが大きな理由である。

【評議委員】以前は新島会館でやっていた記憶があるが、歴史講座に参加される方は、比較的高齢者が多いはず。よって、夜間にはなかなか集まりにくいのではないかと。できれば昼間開催にした方が良さそう。参加者も少ないように感じる。また、参加したい方はたくさんいると思われる内容なので、もったいない気がする。歴史講座は、展示を素材とした内容を話すのだが、活動としては必要なことだ。外部に向かって、歴史資料館の存在価値を周知することは、良いことである。

【京都市】新島会館は、最近使用不可となった。予算の範囲内で、時間帯、場所などについて検討したい。

【評議委員】歴彩館ではテーマもさることながら、最近ホールで実施されているのだが、やっているのを実際に見ると、内容は、江戸時代の菱川村と吉祥院村の話である。重要なテーマなのだが、400人も集まるかという場所でやっているが。やはり、一定数集まっている。しかも平日の昼間に。キャパはすごく大きいし、座りやすいし、画面も大きい。雰囲気がいいというか、ああいうところに行って、平日の半日、歴史の話を聞きにいきたいというニーズがあるのだ。興味がある人だけではないように見える。歴史資料館は、小規模な建物なので大変だろうが、テーマはいくらでも有しているはずなので、がんばっていただきたい。

【京都市】参考にする。

【評議委員】建物の大きさも違うので一概には言えないが、堺市博物館の入館者割合のうち、多くを占めているのが、学校の児童たちである。歴史資料館では学校からは見学に来られないのか。展示のテーマとしては少しハイレベルなので、子どもたちには難しいかと思うが、学校教育との連携という面では、どういう取り組みをされているのか。

【京都市】学校関係で言うと、多いのは修学旅行生などが、班単位で訪れることはある。近隣の小学校・中学校で来られるというのは少ないと感じている。また、数年間だが、近隣の御所南小で地域の歴史の話をさせていただいたことがある。

【評議委員】子どもたちの反応はどうだったか。

【京都市】アンケートからは、楽しかった、また来たいなどの積極的な意見を記載していただいている。

【京都市】子どもたちにアプローチする、子どもたちの学びの場にするというのは、歴史資料館であれ美術館であれ、大事なことを考えている。歴史資料館は、例えばバスの駐車場もなく、多くの人数を受け入れられるような施設規模ではないため、やや困難である。文化財とか歴史資料に限らず、学校の授業に出向いて講義するという取組みは、京都市では長く続けており、知らなかったものを知る体験というものは、分野によってはやっている。今、話を聞き、子どもたちへのアプローチの方法も、いくつかあるのでは感じている。また、そういう観点で、歴史資料館でも色々と知恵を絞ることが可能と考える。

(5) 令和8年度事業計画案説明(資料5参照)、質疑

【評議委員】特別展の寛永行幸を扱うとあるが、よく新聞記者に、目玉は何かと聞かれると思うが、この展覧会の目玉は何か。

【京都市】今回は、元離宮二条城事務所と歴史資料館の両事業所の主催としている。様々なところで寛永400年祭の関連で一斉に展覧会を実施するため、資料の取りあいになっている。そこで今回、歴史資料館で考えているのは、歴史展示に特化することである。京大の博物館から借りる予定の絵巻の展示や、寛永400年そのものではなく、江戸時代の京都の城に関するもの、江戸時代の初め、家康がどのように京都の町を変えたのかという観点で計画中である。

【評議委員】結局、いかに来館者を増やすのかということが、課題だと思っている。二条城と連携して開催されるとのことだが、例えば、スタンプラリーみたいなもので、二つ行ったらシールを渡すとか、そういうちょっとしたお遊びみたいな企画がいいのではないか。うちの孫は、動物園に行くとスタンプラリーがあるのだが、あれがすごく楽しくてやっている。また、考古資料館では、地元のNPOと組んで、年に1回ぐらいだが、近くのウォーキングを企画している。その中で最後の終点を歴史資料館としてもらい、展示を見てもらうというのも、検討の余地がある。

【京都市】寛永行幸に関しては、こちらと二条城だけではなくて、市内の博物館等と連携できないか協議しているところである。様々な取組みを行っていきたい。

(6) 京都市歴史資料館 歳入・歳出 予算・決算額 推移表説明 (資料6 参照)、質疑

【評議委員】新規事業の古文書等の維持継承推進事業は、重要な事業だと思うが、調査の件数などはどう考えているのか。

【京都市】具体的にどれを調査するかは未定だが、近年の例でいえば、令和元年から4年度に国庫補助金を受けた事業を実施したところ、京都市内の個人所有の古文書調査事業として、熊谷家文書等を調査した。その際は4年間調査し、成果としては2件であった。ただ、点数としては5千点ほどある。一概に何件というのは出しにくい、それぐらいが目安になるかと考えているところである。

【評議委員】候補はあるのか。

【京都市】ある程度の候補はある。単年度で調査を終了するのは難しいため、9年度、10年度と予算要求しながら、調査を続けられるよう検討しているところである。

【評議委員】8年度だけではなくて、継続事業という意味か。

【京都市】歴史資料館としては、そのように考えている。

【評議委員】それは、3年とか5年とかいう計画を立てているのか。具体的には立てていないが、今後、交付金を充てていくというつもりか。

【京都市】まだまだ明らかになっていない重要な古文書があると思われるので、予算が認められる限り、続けていく必要があると考えている。

【評議委員】現場で作業をしていたので、そういう目で見えてしまうのだが、今でも多くの事業を抱えている中で、これが加わってくるとのことだから、おそらく大変な作業になるだろう。

【京都市】説明文にもあるように、歴史資料館だけでやりきるのは難しいため、大学の研究者や、市民の方々も巻き込み、社会全体で古文書を大切に守るという機運を醸成しつつ、調査を実施していく。

【評議委員】初年度は、キャンペーン的な動きになるのですか。

【京都市】啓発、シンポジウム等を実施し、社会全体に訴えていくようなことも含めて検討している。

【京都市】背景として、古文書については、市役所内でも議論があり、町家が減っていく中で、埋もれていくのではという課題を認識したところである。では、そういう危機に瀕

している古文書がどれだけあるのか。推測するだけで、何百万とあるのではないか。行政がそれを発見、調査及び研究し、どれくらいの期間を要するのか、また、そのうちにどんどん失われていく。これをどう解決するのかという中で、まずは全体の機運を盛り上げる必要がある。また、捨てる前に一度立ち止まってもらうというマインドを育てていく必要もある。大学や研究機関等の協力を得ながら、様々な意味での裾野を広げていきたい。そのための方策は今後も検討していく。モデル的に町家が多いと言われているところにまず調査に入っていく、あるいは、歴史資料館が所有しているものをさらに深めていく、また、シンポジウムの開催、相談会の実施等の施行実試を考えている。今後、進捗していく中で、ご意見をいただきたい。

【評議委員】 今日も新聞で真如堂の検地帳のことが掲載されていたが、教科書にも載っているようなこと、また、皆が知っていることのため、関心が高い。それだけではなく、紙に書かれたものへの市民の方々の興味は、我々が想像している以上に大きいはず。大事な取組みである。

【評議委員】 I P Mメンテナンスの予算が8年度からついているが、7年度以前はどうしていたのか。

【京都市】 以前は、管理運営費の中で実施してきた。収蔵庫はいくつもあるが、一年に一つの収蔵庫に限られ、50万円や100万円の予算で行い、順番にやっていたところである。歴史資料館も築40年以上が経過し、温湿度管理等も思うようにできていない。できる限り資料の保存状況をよくしたいという思いもあり、昨年度から予算要求し、毎年、収蔵庫すべてのメンテナンスができるような形を認められ、別枠で予算措置されたところである。

【評議委員】 歳入のところで寄付金という項目があり、驚いているのだが、海外の美術館や資料館に行くと、透明な大きな箱が置いてあり、お札が入っている。そういう形の寄附というのは、例えば、箱を置いて寄付を募ることは、こちらでも可能か。

【京都市】 現在、実施している。入っていただいて右側に箱を設置している。

【評議委員】 あったか。気が付かなかった。

【京都市】 紙幣で寄付をいただくことが少ないため、気づかれなかったのかもしれない。

【評議委員】 もう少し大きな箱で、設置場所も目立つところだったら、もっと入るのでは。

【京都市】 館内では目立つところと認識している。

(7) 事務連絡

評議委員・市民公募委員の任期について説明。

(8) 閉会あいさつ